



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 笠間市立穴戸小学校 】

| | |
|--------------------|---|
| 1 実践テーマ | I・III・V |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 5年1組27名、5年2組27名 (講演会のみ：6年1組42名、3年1組40名) 計136名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間：5・6年、国語：3年) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | パラリンピックの競技である「車いすバスケットボール」を実際に見て体験し、選手の話聞いて、パラリンピックとは障害をもつ人にとって、どんな思いが込められたものなのかを理解し、偏見のない共生社会への関心を深める。 |
| 5 取組内容 | (1) 事前学習 講演会で質問したいことなどについて考えた。また、講演会を児童が進行できるよう事前準備をした。 (2) 当日 ① 講演会 パラリンピアンの方満いずみさんを講師に招いて、体育館で講演会を行った。方満さんは、東京パラリンピックへの出場経験、共生社会等について話をしてくださった。その後、もっと知りたいことや疑問に思ったことについて質問をし、それに対して丁寧に答えてくださった。そして、代表児童がお礼の言葉を述べた。  方満いずみさんの話を聞く児童  お礼を述べる児童 ② 車いすバスケットボール体験 一般社団法人シッティングスポーツ協会から3名の講師を招いて、車いすバスケットボールの体験活動を行った。始めに、車いすバスケットボールの特徴やルールの説明があった。その後、実際にリレーやシュートを行ったり、ゲームを行ったりした。 |

〔児童の感想〕

- ・ 「パラリンピックの熱を冷まさないようにしたい。」という言葉が印象に残った。
- ・ 財満さんが言ったとおり、勇気を出して障害をもった人に話しかけたり、ちょっとした手助けをしたりすることが大切だと思った。
- ・ 財満さんを裏で支えていた皆さんは、とてもすごいなと思った。
- ・ 車いすバスケットボールの体験では、思ったよりも車いすを動かすのが難しく、困っている人がいたら助けてあげたいなと思った。



児童が車いすバスケットボールを体験する様子

③ 体験活動終了後

事後アンケートと財満さんへのメッセージを記入した。活動後、「途中から財満さんが、体が不自由だということを忘れていた。」と話すと児童が多く、障害だけに目を向けず、財満さんの話を一生懸命に聞いていたことが分かった。共生社会への第1歩である。

(3) 事後学習



- ① 道徳の学習で、財満さんの生き方や考え方に触れた。また、他のパラリンピック選手（車いすラグビーなど）についても紹介した。
- ② タブレットを利用して、パラリンピック等の調べ学習を行った。
- ③ オリンピック・パラリンピックについてのアンケートを行った。

6 主な成果

事業実施以前は、パラリンピックは「聞いたことはあるが、見たことはない。」という児童が9割であった。また、車いすバスケットボールの名前は知っているが、詳しく知っている児童はほとんどいなかった。実施後のアンケート（5年生54名）で、車いすバスケットボールについて、さらに詳しく調べてみたいという児童が35名いたことから、パラリンピック競技への関心を高めることができたと考えられる。

パラリンピックのよさやパラリンピアンへの努力、人としての生き方、インクルーシブな考え方を感じてほしいと思い、今回の事業に応募した。学習後の感想には、「体が不自由なことはかわいそうなことではない。」「体が不自由でもできることがある。」「『あきらめない気持ちが大切』『みんなで生きる大切さ』『ちょっとの勇気が大切』について講演されたのを聞いて、ポジティブにとらえることの大切さが分かった。」というものがあつた。このことから、今回の目的は達成できたと考えられる。また、以下のことについても成果として挙げる事ができる。

- ・ パラスポーツの体験活動を通して、障害者に対する理解を深めることができた。
- ・ 障害者への関わり方のポイントを学ぶことにより、日常生活における障害者への配慮についての理解が深まった。また、共生社会について考えるよいきっかけとなった。
- ・ 障害者などの様々な人の人権について考える機会となり、人権意識を高揚させることができた。

| | |
|----------------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> グループワークのゲームを通して、児童相互の関係性の向上を図ることができた。 対人関係を向上させるためのヒントを実際の活動の中で体感させることができた。 |
| <p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 本実践は、5年生の福祉体験の一環として行った。シニア体験の経験から「動けない感覚」を、身をもって知っていることから、今回「車いすバスケットボール」を選択し、経験させることで児童の学びにつながりをもたせるようにした。 話を聞くだけでなく、実感を伴って理解を深めることができるように体験活動も行った。 学校で行う人権教育の推進と関連させて実施した。 コロナ禍の中で、実施時期を変更し、緊急事態宣言後に実施計画を再立案して実施した。 今年度開催された東京オリンピック・パラリンピック2020に関連させ、関心・意欲が高まるようにした。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <p>ゲーム全体像</p> <p>県立医療大スタッフとともに</p> </div> |
| <p>8 主な課題等</p> | <ul style="list-style-type: none"> 車いすバスケットボール以外のパラスポーツにも関心を向けさせることが必要だと考える。例えば、車いすバスケットボール体験会後に他の競技を紹介し、興味のある競技について学習する機会を設けることで、共生社会についてより一層理解を深めることができたと考える。 新型コロナウイルス感染症防止対策をふまえての事業実施のため、ゆとりのある場所や三密防止などに留意しなければならなかった。(消毒の徹底・講演者との距離の確保・学年を分けての隊形・ゆとりのある会場設定など) |
| <p>9 来年度以降の実施予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピック・パラリンピックの開催を終えたが、この取組は継続しなければならないと考える。児童がオリンピック・パラリンピックへの関心もてるよう、学校としても啓発に力を入れていきたい。そして、児童が共生社会への理解を一層深め、偏見や差別のない社会を目指していけるようにしていきたい。 継続で選定していただけるのであれば、来年度もオリンピック・パラリンピック教育事業に参加したい。実践校に選定されなくても、今年度の経験を生かした活動を来年度も実施したい。 |